

2022年7月10日 午前礼拝
「神のみこころにかなう願い」 説教者:堺希望伝道師

【引用聖句】

Iヨハネ5:14-17

14 その後、イエスは宮の中で彼を見つけて言われた。「見なさい。あなたはよくなった。もう罪を犯してはなりません。そうでないもっと悪い事があなたの身に起こるから。」

15 その人は行って、ユダヤ人たちに、自分を直してくれた方はイエスだと告げた。

16 このためユダヤ人たちは、イエスを迫害した。イエスが安息日にこのようなことをして
おられたからである。

17 イエスは彼らに答えられた。「わたしの父は今に至るまで働いておられます。ですから
わたしも働いているのです。」

【説教要約】

①「すでになされた」祈り

14 その後、イエスは宮の中で彼を見つけて言われた。「見なさい。あなたはよくなった。もう罪を犯してはなりません。そうでないもっと悪い事があなたの身に起こるから。」

15 その人は行って、ユダヤ人たちに、自分を直してくれた方はイエスだと告げた。

Iヨハネ5:14-15

クリスチャンの特権に、神様に願えるということがあります。しかも、「何事でも」と言われています。全ての事について願う権利をいただいているんですね。しかも、「私たちの願う事を神が聞いてくださると知れば、神に願ったその事は、すでになされた」と約束されています。「願いをかなえてくださる」という言い方より、「願う事を聞いてくださるとき、すでになされた」という確実に大胆な言い方をされているのです。

皆様。日々、すべてのことについて神様に願っていますか。神様が聞いてくださるという、これ以上ない確実な約束があるのですから、もっと祈っていきたいです。

皆様のお知り合いに、自分の言うことを何でも叶えようとしてくれる人はいますか。あれが欲しいと言えば買って来て、これをして置いて欲しいと言ったら文句を言わず絶対にやってくれる。そんな都合の良い人はいないのではないかと思います。しかし、神様は「何事でも」願ったことを聞いてくださるのです。どうしてそんなに優しいのかというと、私たちを愛しておられるからです。

32 私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましよう。

ローマ8:32

神様は、一番大切なイエス様を私たちのために犠牲にしてくださいました。それが私たちに一番必要なものだったからです。イエス様を犠牲に、私たちは罪を赦され、永遠の滅びから救い出されたのです。それほど私たちを愛し、近くにいてくださるのです。ならば尚更のこと、「惜しまずに」私たちに必要なものをすべて与えて下さるのです。

7 求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。

8 だれであれ、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。

9 あなたがたも、自分の子がパンを下さいと言うときに、だれが石を与えるでしょう。

10 また、子が魚を下さいと言うのに、だれが蛇を与えるでしょう。

11 してみると、あなたがたは、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものを下さらないことがありますでしょう。

マタイ 7:7-11

父親が子どもに対して必要なものを与えるのだから、完全な天のお父様は、子どもである私たちにもっと的確に必要なものを与えて下さいます。ただ、聞かれる願いには一つ条件があるのです。「神のみこころにかなう願いをするなら」ということです。神様が「よいこと」と認められたことなら、それは叶えられるのです。

なぜかと言えば、人間は何が良いことで何が悪いことかを間違えるからです。ちょうど、小さい子供がお菓子をねだるようです。親は、子どもに適切な量のお菓子を知っているので、子どもがねだってもダメなものはダメと言います。

また、人は時を見極められないからです。たとえいいものであっても、それは今必要ではないかもしれません。人間が「今必要だ」と思っても、神様にとっては今ではないということがよくあります。

「じゃあ、何がみこころに叶う願いなのか分からないじゃないか」と思われるかもしれませんが、神様のみこころとは何でしょうか。イエス様が、弟子たちに「祈り方を教えてください」と言われた時に教えた祈りがあります。私たちも礼拝でお献げしている「主の祈り」です。その最初はこうです。

8b あなたがたの父なる神は、あなたがたがお願いする先に、あなたがたに必要なものを知っておられるからです。

9 だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。』

10 御国が来ますように。みこころが天で行われるように地でも行われますように。

マタイ 6:8b-10

これは祈りの前半ですが、一番初めに何を願っているかという、「御名があがめられますように」なのです。「神様がほめたたえられるように」ということです。これが神様のみこころです。私たちの願いは、「神様がほめたたえられるために」かなえられる必要があるのです。私たちのすべての願い事を通して、神様がほめたたえられることが大切です。なぜなら、すべての良いものは神様から来ているからです。

17 すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。

ヤコブ 1:17a

また、神様は私たちに本当に必要なものをすべてご存知だからです。

と、理屈ではこうして説明できますが、実際にそう信じて願うことはとても難しいことと思います。具体的に「神様がほめたたえられるため」に願うとはどういうことか、イメージがしづらいからです。

聖書から、ある人物を見たいと思います。ヨナは紀元前 800 年ごろの預言者でした。ヨナの国イスラエルはアッシリヤという国に攻められていました。神様はヨナに、敵国アッシリヤの首都ニネベに宣教に行けと命じるのです。

2 「立って、あの大きな町ニネベに行き、これに向かって叫べ。彼らの悪がわたしの前に上って来たからだ。」

3 しかしヨナは、主の御顔を避けてタルシシュへのがれようとし、立って、ヨッパに下った。

ヨナ 1:2-3a

ヨナは、神様の命令に背いてニネベと逆方向に逃げました。「憎き敵であるニネベに宣教になんていけるか」と思ったのです。しかしヨナの乗った船は嵐に遭い、ヨナは海に投げ出されます。そして有名な、大きな魚に飲まれて三日間お腹の中になります。

魚のお腹の中で、ヨナは神様に背いたことを悔い改めます。そして魚はニネベにヨナを吐き出したので、ヨナは神様の言う通りニネベに宣教するのです。そして、ヨナの宣教は大成功し、それまで悪の道にいたニネベの全員が悔い改めたのです。しかし……

10 神は、彼らが悪の道から立ち返るために努力していることをご覧になった。それで、神は彼らを下すと言っておられたわざわいを思い直し、そうされなかった。

1 ところが、このことはヨナを非常に不愉快にさせた。ヨナは怒って、

2 主に祈って言った。「ああ、主よ。私がまだ国にいたときに、このことを申し上げたではありませんか。それで、私は初めタルシシュへのがれようとしたのです。私は、あなたが情け深くあわれみ深い神であり、怒るのにおそく、恵み豊かであり、わざわいを思い直されることを知っていたからです。

3 主よ。今、どうぞ、私のいのちを取ってください。私は生きているより死んだほうがましですから。」

ヨナ 3: 10-4: 3

宣教が大成功したのに、ヨナは苛立って、死にたいとさえ言い始めるのです。憎き敵であったニネベが、神様によって救われてしまったから怒っているのです。ニネベでの宣教は神様の偉大さがあらわれ、御名があがめられる出来事でした。しかしヨナの心が、神様と一致していないのです。ヨナはなんと滑稽なことを言っているのかと思いますが、これが「みこころが分からない」ということなのです。

このあと、ヨナは神様と我慢比べを始めます。神様が思い直してニネベを滅ぼしてくれないかと待つのです。神様はヨナに一つの授業をします。待っているヨナに植物を生えさせて日陰を作ってあげるのです。ヨナは喜びました。しかし翌日、神様はその植物を枯れさせてしまいました。

8 太陽が上ったとき、神は焼けつくような東風を備えられた。太陽がヨナの頭に照りつけたので、彼は衰え果て、自分の死を願って言った。「私は生きているより死んだほうがましだ。」

9 すると、神はヨナに仰せられた。「このとうごまのために、あなたは当然のこのように怒るのか。」ヨナは言った。「私が死ぬほど怒るのは当然のことです。」

10 主は仰せられた。「あなたは、自分で骨折らず、育てもせず、一夜で生え、一夜で滅びたこのとうごまを惜しんでいる。

11 まして、わたしは、この大きな町ニネベを惜しまないでいられようか。そこには、右も左もわきまももしない十二万以上の人間と、数多くの家畜とがいるではないか。」

ヨナ 4 : 8-11

ヨナは自分を喜ばしてくれた植物のために一喜一憂し惜しみました。しかし神様は、ニネベを惜しみました。神様はニネベを愛していましたが、ヨナはニネベを愛していませんでした。これが問題だと、神様はヨナに教えたのです。

一番の問題は、私たちの心が、神様のみこころと離れていることなのです。しかし、神様は私たちが愛しておられるので、間違った願い事や態度であっても、みこころを授業してくださいます。

このように、「何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださる」ことは驚くような約束です。しかし、この約束が本当にすごいと分かるには神様がどのようなお方か知っていく必要があるのです。

②罪のとりなしのための「願い」

16 だれでも兄弟が死に至らない罪を犯しているのを見たなら、神に求めなさい。そうすれば神はその人のために、死に至らない罪を犯している人々に、いのちをお与えになります。死に至る罪があります。この罪については、願うようにとは言いません。

17 不正はみな罪ですが、死に至らない罪があります。

Iヨハネ 5 : 16-17

何が神様のみこころなのか、大きな枠はイエス様が教えてくださいました。

36 「先生。律法の中で、たいせつな戒めはどれですか。」

37 そこで、イエスは彼に言われた。『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』

38 これがたいせつな第一の戒めです。

39 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。

40 律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。」

マタイ 22 : 36-40

第一に「心と生き方のすべてで神様を愛する」こと。次に、「自分自身を愛するように隣人を愛する」ことです。この目的のために願うことは、みこころにかなう願いです。

Iヨハネで何度も何度も「兄弟を憎まないで、愛しなさい」と言っています。これは、教会でイエス様を否定する教えをし、教会を傷つけて出て行った偽教師がいたからです。「憎まないで愛しなさい」とは、本当に難しいことだったのだと思います。

その「愛する」実践が、神様へのとりなしです。兄弟が罪を犯した時、私たちに勧められていることは、その人のために神様へとりなしの願いをすることです。先ほどまで見てきた「神に願ったその事は、すでになんえられたと知る」という約束を、兄弟のためにするのです。これは、霊的に兄弟を愛する行為だからです。私たちが、誰かの罪に遭遇したときにすべきことは、相手のためにとりなすことなのです。

この、最も代表的な祈りをされたのはイエス様です。

37 それから、ペテロとゼバダイの子ふたりとをいっしょに連れて行かれたが、イエスは悲しみもだえ始められた。

38 そのとき、イエスは彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここを離れないで、わたしといっしょに目をさましていなさい。」

39 それから、イエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈って言われた。「わが父よ。できませんならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにはではなく、あなたのみこころのように、なさってください。」

マタイ 26 : 37-39

十字架の前夜、イエス様は一人で祈られました。死ぬほどの悲しみがイエス様を襲っていました。なぜなら、もうすぐ全人類の罪の罰である神様の怒りを受けるからです。これまで天のお父様と完全に一致して歩まれてきたイエス様が、祈りの中でこう言います。「できませんならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください」。罪の罰を、受けずに過ぎ去らせてほしいと願ったのです。ですが、その後こう言われます。「しかし、わたしの願うようにはではなく、あなたのみこころのように、なさってください」と。

イエス様は知っていました。ご自分が罪の代価を支払わなければ、私たちが救われずに滅びることを。そして、神様の御栄光が、自分がどうしても避けたいと思われた死と、その先の復活を通して現わされることを知っておられました。イエス様の仰った、「できませんならば」という言葉は、どれほどの重みでしょうか。私は自分がしている神様への願い事を恥ずかしいとさえ思います。イエス様は、「神を愛する」と「隣人を愛する」ために、「あなたのみこころのように、なさってください」と神様のみこころを願いました。

7 キリストは、人としてこの世におられたとき、自分を死から救うことのできる方に向かって、大きな叫び声と涙とをもって祈りと願いをささげ、そしてその敬虔のゆえに聞き入れられました。

ヘブル 5 : 7

イエス様は、十字架の先に、父なる神様が死から救ってくださることを信じて祈ったのです。その祈りは、イエス様ご自身の力となって、最後の復活まで一直線に向かわれます。イエス様のこの祈りこそ、「神のみこころにかなう祈り」でした。それはご自分のためではなくて、

父なる神様と隣人＝私たちのためにささげられたのです。ですから私たちも、願い事を聞いてくださる神様に、とりなしの祈りをするように勧められています。

1 兄弟たちよ。もしだれかがあやまちに陥ったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい。

2 互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法を全うしなさい。

ガラテヤ 6 : 1-2

最後に。

Iヨハネ 5 : 16 では線引きがされています。罪には二種類あって、「死に至らない罪」と「死に至る罪」があります。この死は永遠の死を言っています。この罪の違いが何であるのか、ここでははっきりと言われていないので色々な説があります。イエス様は、あるパリサイ人達に対して赦されない罪の話をされました。私は、そのことではないかと思います。

31 だから、わたしはあなたがたに言います。人はどんな罪も冒瀆も赦していただけます。しかし、御霊に逆らう冒瀆は赦されません。

32 また、人の子に逆らうことばを口にする者でも、赦されます。しかし、聖霊に逆らうことを言う者は、だれであっても、この世であろうと次に来る世であろうと、赦されません。

マタイ 12 : 31-32

パリサイ人達は、イエス様が悪霊を追い出しているのを見て、「悪霊のリーダーを使って追い出している」と言ったのです。神の働きを見て、悪魔の働きと言い張ったと言うわけです。「聖霊に逆らうことを言う者」、つまり心に神様のみわざを教えられているのにあえて反抗し、神様に逆らうということです。

人にも、聖霊にも教えられても神様に逆らうなら、もはやその人を立ち返らせることができません。だから、「死に至る罪」なのではないかと思います。よく読むと、「死に至る罪」を犯している人は兄弟と呼ばれていません。ですから、Iヨハネの教会から出て行った偽教師たちのことではないかと思います。

19 彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。もし私たちの仲間であったのなら、私たちといっしょにとどまっていたことでしょう。しかし、そうなったのは、彼らがみな私たちの仲間ではなかったことが明らかにされるためなのです。

Iヨハネ 2 : 19

この罪の分け方が何を教えているかと言うと、どこまで熱心にとりなしたらいいかと言う事です。

19 私の兄弟たち。あなたがたのうちに、真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を連れ戻すようなことがあれば、

20 罪人を迷いの道から引き戻す者は、罪人のたましいを死から救い出し、また、多くの罪をおおうのだということ、あなたがたは知っていなさい。

ヤコブ 5 : 19-20

罪を犯した者、迷い出た者を愛することを聖書は言います。それは、たとえどんなに離れてしまっても、「死に至らない罪」であるなら望みがあるということです。私たちは、どこまでとりなしたらいいのか。その人が主を否定しない限り、最後まで望みはあるのです。しかし罪は、その人を神様から遠ざけ、闇の中におらせます。だから私たちは、イエス様がすべての罪人のために祈られたように、神様を見失っている人々のためにとりなすべきです。

最後に、暗証聖句を読みましょう。

7 愛する者たち。私たちは、互いに愛し合いましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。

8 愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。

9 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。

10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物として御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

Iヨハネ 4：7-10